

第72期定時株主総会資料

(電子提供措置事項のうち交付書面省略事項)

連 結 注 記 表

個 別 注 記 表

(2023年1月1日から2023年12月31日まで)

日置電機株式会社

上記事項につきましては、法令および当社定款第15条の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面（電子提供措置事項記載書面）には記載しておりません。

連結注記表

連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の状況

- | | |
|------------|---|
| ① 連結子会社の数 | 11社 |
| ② 連結子会社の名称 | 日置フォレストプラザ株式会社 HIOKI USA CORPORATION 日置（上海）測量技術有限公司 日置（上海）科技発展有限公司 日置（上海）測量儀器有限公司 HIOKI SINGAPORE PTE. LTD. HIOKI KOREA CO., LTD. HIOKI INDIA PRIVATE LIMITED HIOKI EUROPE GmbH 台湾日置電機股份有限公司 PT. HIOKI ELECTRIC INDONESIA 2023年9月に、PT. HIOKI ELECTRIC INDONESIAはPT. HIOKI ELECTRIC INSTRUMENTから商号変更しております。 |

(2) 非連結子会社の状況

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、HIOKI INDIA PRIVATE LIMITEDの決算日は3月31日であります。
連結計算書類の作成にあたっては、連結決算日現在で仮決算を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

- ・市場価格のない株式等
以外のもの

時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

- ・市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

② 棚卸資産

a. 商品及び製品、仕掛品、原材料

移動平均法による原価法

（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

b. 貯蔵品

総平均法による原価法

（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

定率法、ただし厚生施設（宿泊施設、グランド付帯設備等）及び1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

| | |
|-----------|-------|
| 建物及び構築物 | 3～50年 |
| 機械装置及び運搬具 | 4～17年 |
| 工具、器具及び備品 | 2～20年 |

- ② 無形固定資産 定額法、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）、販売用ソフトウェアについては販売可能期間（3年）に基づく定額法によっております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ② 製品保証引当金 顧客に納品した一部製品の保証費用について、今後発生する費用見込額を個別に見積り計上しております。
(追加情報)
当連結会計年度から、顧客に納品した一部製品の保証費用について、金額的重要性が増したため、翌連結会計年度以降に発生する費用見込額を個別に見積り、「製品保証引当金」として計上しております。
- ③ 賞与引当金 当社及び一部の連結子会社は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、翌期支給見込額のうち当連結会計年度に帰属する額を計上しております。
(追加情報)
前連結会計年度において、「流動負債」の「未払費用」に含めておりました、翌期支給のうち当連結会計年度に帰属する従業員に対する賞与（一部の連結子会社の従業員に対する賞与は除く）について、連結計算書類作成時に支給額が確定しないこととなったため、当連結会計年度から支給見込額を「賞与引当金」として計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
- ① 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日から費用処理することとしております。
過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。
未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。
- ③ 小規模企業等における簡便法の採用 一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- (5) 重要な収益及び費用の計上基準
当社グループは、電気測定器の製造、販売を主な事業内容としております。
当社グループの自動試験装置の販売において、顧客仕様にカスタマイズされた自動試験装置で設置立上げの履行義務がある場合においては、設置立上げ完了後、検収時に収益を認識しております。
その他の電気測定器の取引については、国内販売においては出荷から支配が顧客に移転するまでの期間が通常の期間である場合、代替的な取扱いとして顧客への出荷時に収益を認識しております。また、輸出販売においては船積時に収益を認識しております。
契約履行に伴い発生する販売報奨金については、取引の実態に鑑み変動対価として取り扱っております。
履行義務の対価は、履行義務充足後、別途定める支払条件により概ね3か月以内に回収しており、重大な金融要素は含んでおりません。
- (6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

会計方針の変更に関する注記

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、連結計算書類に与える影響はありません。

表示方法の変更に関する注記

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「流動負債」の「未払費用」(前連結会計年度は、3,491,893千円)は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。

なお、当連結会計年度の「未払費用」は、967,810千円であります。

会計上の見積りに関する注記

棚卸資産の評価

1. 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

| 区分 | 連結貸借対照表計上額 (千円) |
|----------|-----------------|
| 商品及び製品 | 1,427,193 |
| 仕掛品 | 1,015,135 |
| 原材料及び貯蔵品 | 6,403,800 |
| 合計 (注) | 8,846,130 |

(注) 当社の計算書類に計上されている金額は、8,061,495千円であります。

連結計算書類に計上されている棚卸資産評価損の金額は、△23,547千円(△は戻入額)であります。このうち、当社の計算書類に計上されている棚卸資産評価損の金額は、△23,942千円(△は戻入額)であります。

2. 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結計算書類に計上されている棚卸資産において金額的に重要な割合を占めているのは、当社の棚卸資産と認識しております。当社の棚卸資産の評価は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法によっております。製品のライフサイクル期間や修理保証期間を踏まえて決定した一定の回転期間を超える品目がある場合には、その回転期間に応じて定期的に帳簿価額を切り下げる方法を採用しております。また、正味売却価額が帳簿価額を下回っている商品及び製品に対する評価につきましては、正味売却価額まで帳簿価額を切り下げる方法を採用しております。

市場の設備投資動向や競合製品による需要の低迷を受け、各品目の回転期間に変動が生じる場合があります。このような場合、棚卸資産評価損の追加計上が必要となる可能性があり、翌連結会計年度に係る連結計算書類において重要な影響を与える可能性があります。

連結貸借対照表に関する注記

1. 受取手形、売掛金及び契約資産のうち、顧客との契約から生じた債権の金額及び契約資産

受取手形 1,074千円

売掛金 3,602,254千円

2. 国庫補助金等により取得した固定資産の圧縮記帳累計額

建物 621,590千円

構築物 12,769千円

土地 100,000千円

3. 有形固定資産の減価償却累計額 16,863,035千円

連結損益計算書に関する注記

顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、「収益認識に関する注記 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度 期首株式数 (株) | 当連結会計年度 増加株式数 (株) | 当連結会計年度 減少株式数 (株) | 当連結会計年度末 株式数 (株) |
|----------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式 | 14,024,365 | — | — | 14,024,365 |
| 自己株式 | | | | |
| 普通株式 (注) | 372,001 | 138 | 4,747 | 367,392 |

(注) 1. 自己株式数の増加138株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 自己株式数の減少4,747株は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による減少であります。

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額等

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------------|------------------|-------------|------------|
| 2023年2月27日 定時株主総会 | 普通株式 | 1,092,189 | 80 | 2022年12月31日 | 2023年2月28日 |
| 2023年6月9日 取締役会 | 普通株式 | 1,229,128 | 90 | 2023年6月30日 | 2023年8月14日 |

- (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの
2024年2月28日開催予定の第72期定時株主総会において次のとおり付議いたします。

| 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 配当の原資 | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|-------|----------------|-------|------------------|-------------|------------|
| 普通株式 | 1,229,127 | 利益剰余金 | 90 | 2023年12月31日 | 2024年2月29日 |

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については余裕資金をもって行い、安全性の高い金融資産で運用しております。デリバティブ取引は利用しておらず、また、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形、売掛金及び電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建の営業債権は為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1か月以内の支払期日であります。一部外貨建のものについては、為替の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク (取引先の契約不履行等に係るリスク) の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権については総務部長が総括し、経理課は営業部門と緊密なる連絡をとりながら管理しており、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

② 市場リスク (為替や金利等の変動リスク) の管理

投資有価証券については、定期的到时価や発行体の財務状況等を把握しております。

当社及び一部の連結子会社は外貨建債権債務を保有しておりますが、通貨別に行替変動による影響を把握しております。ただし、為替予約等によるヘッジは行っておりません。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2023年12月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は含めておりません（（注）2. 参照）。

| | 連結貸借対照表計上額 (千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 投資有価証券 | | | |
| その他有価証券 | 810,853 | 810,853 | — |
| 資産計 | 810,853 | 810,853 | — |

(注) 1. 「現金及び預金」、「受取手形、売掛金及び契約資産」、「電子記録債権」、「買掛金」及び「未払法人税等」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

2. 市場価格のない株式等

| 区分 | 連結貸借対照表計上額 (千円) |
|-----------------|-----------------|
| その他有価証券 (非上場株式) | 5,200 |

市場価格のない株式等については、「投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

3. 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

| 区分 | 時価 (千円) | | | |
|---------|---------|------|------|---------|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| 投資有価証券 | | | | |
| その他有価証券 | 810,853 | — | — | 810,853 |
| 資産計 | 810,853 | — | — | 810,853 |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

収益認識に関する注記

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

製品別、顧客の所在地別に分解した収益の情報は、次のとおりであります。

| | | 顧客との契約から 生じる収益 (千円) | その他の収益 (千円) | 合計 (千円) |
|-----|--------|---------------------------|----------------|------------|
| 製品別 | 自動試験装置 | 2,882,969 | — | 2,882,969 |
| | 記録装置 | 5,426,186 | — | 5,426,186 |
| | 電子測定器 | 21,374,743 | — | 21,374,743 |
| | 現場測定器 | 7,660,741 | — | 7,660,741 |
| | 周辺装置他 | 1,798,293 | 11,098 | 1,809,392 |
| | 合計 | 39,142,934 | 11,098 | 39,154,033 |
| 地域別 | 日本 | 14,357,151 | 11,098 | 14,368,250 |
| | 中国 | 10,544,932 | — | 10,544,932 |
| | その他アジア | 7,426,790 | — | 7,426,790 |
| | アメリカ | 3,374,745 | — | 3,374,745 |
| | ヨーロッパ | 2,699,235 | — | 2,699,235 |
| | その他の地域 | 740,079 | — | 740,079 |
| | 合計 | 39,142,934 | 11,098 | 39,154,033 |

(注) その他の収益は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づく賃貸収入等であります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記 4. 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

(1) 顧客との契約から生じた債権、契約資産及び契約負債の残高等

| | 当連結会計年度 | |
|---------------|-----------|-----------|
| | 期首残高 (千円) | 期末残高 (千円) |
| 顧客との契約から生じた債権 | | |
| 受取手形 | 3,120 | 1,074 |
| 売掛金 | 3,636,219 | 3,602,254 |
| 電子記録債権 | 316,839 | 245,278 |
| 契約負債 | 178,408 | 323,577 |

契約負債は、主に製品の引渡し前に顧客から受け取った前受金に関するものであり、収益の認識に伴い取り崩されます。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、残存履行義務に配分した取引価格については、当初に予想される契約期間が1年を超える重要な契約がないため、記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

1株当たり情報に関する注記

- 1株当たり純資産額 2,718円23銭
- 1株当たり当期純利益 463円51銭

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

① 子会社株式

移動平均法による原価法

② その他有価証券

a. 市場価格のない株式等 以外のもの

時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

b. 市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産

① 商品及び製品、仕掛品、原材料

移動平均法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

② 貯蔵品

総平均法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法、ただし厚生施設（宿泊施設、グラウンド付帯設備等）及び1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

| | |
|-----------|-------|
| 建物 | 3～50年 |
| 構築物 | 7～45年 |
| 機械及び装置 | 7～17年 |
| 車両運搬具 | 4～6年 |
| 工具、器具及び備品 | 2～20年 |

(2) 無形固定資産

定額法、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）、販売用ソフトウェアについては販売可能期間（3年）に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 製品保証引当金

顧客に納品した一部製品の保証費用について、今後発生する費用見込額を個別に見積り計上しております。

(追加情報)

当事業年度から、顧客に納品した一部製品の保証費用について、金額の重要性が増したため、翌事業年度以降に発生する費用見込額を個別に見積り、「製品保証引当金」として計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、翌期支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。

(追加情報)

前事業年度において、「流動負債」の「未払費用」に含めておりました、翌期支給のうち当事業年度に帰属する従業員に対する賞与について、計算書類作成時に支給額が確定しないこととなったため、当事業年度から支給見込額を「賞与引当金」として計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、電気測定器の製造、販売を主な事業内容としております。

当社の自動試験装置の販売において、顧客仕様にカスタマイズされた自動試験装置で設置立上げの履行義務がある場合においては、設置立上げ完了後、検収時に収益を認識しております。

その他の電気測定器の取引については、国内販売においては出荷から支配が顧客に移転するまでの期間が通常の期間である場合、代替的な取扱いとして顧客への出荷時に収益を認識しております。また、輸出版売においては船積時に収益を認識しております。

契約履行に伴い発生する販売報奨金については、取引の実態に鑑み変動対価として取り扱っております。

履行義務の対価は、履行義務充足後、別途定める支払条件により概ね3か月以内に回収しており、重大な金融要素は含んでおりません。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

会計方針の変更に関する注記

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、計算書類に与える影響はありません。

会計上の見積りに関する注記

棚卸資産の評価

1. 当事業年度の計算書類に計上した金額

| 区分 | 貸借対照表計上額（千円） |
|----------|--------------|
| 商品及び製品 | 643,104 |
| 仕掛品 | 1,014,884 |
| 原材料及び貯蔵品 | 6,403,506 |
| 合計 | 8,061,495 |

計算書類に計上されている棚卸資産評価損の金額は、△23,942千円（△は戻入額）であります。

2. 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報
連結注記表に注記している内容と同一であるため、記載を省略しております。

貸借対照表に関する注記

1. 国庫補助金等により取得した固定資産の圧縮記帳累計額
- | | |
|-----|-----------|
| 建物 | 621,590千円 |
| 構築物 | 12,769千円 |
| 土地 | 100,000千円 |
2. 有形固定資産の減価償却累計額 16,183,357千円
3. 関係会社に対する金銭債権又は債務
- | | |
|----------|-------------|
| ① 短期金銭債権 | 2,450,608千円 |
| ② 短期金銭債務 | 66,451千円 |

損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

- (1) 営業取引による取引高
- | | |
|--------------|--------------|
| ① 売上高 | 15,116,889千円 |
| ② 仕入高 | 138,999千円 |
| ③ 販売費及び一般管理費 | 349,730千円 |
- (2) 営業取引以外の取引高 1,537,480千円

株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 株式数 (株) | 当事業年度増加 株式数 (株) | 当事業年度減少 株式数 (株) | 当事業年度末 株式数 (株) |
|----------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------|
| 普通株式 (注) | 372,001 | 138 | 4,747 | 367,392 |

- (注) 1. 自己株式数の増加138株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。
2. 自己株式数の減少4,747株は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による減少であります。

税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 of 主な原因別の内訳

| | |
|---------------|-------------|
| 繰延税金資産 | |
| 賞与引当金 | 787,328千円 |
| 賞与引当金に係る社会保険料 | 77,909千円 |
| 未払事業税 | 56,933千円 |
| 棚卸資産評価損 | 9,405千円 |
| 退職給付引当金 | 36,425千円 |
| 長期未払金 | 3,537千円 |
| 株式報酬費用 | 34,852千円 |
| 製品保証引当金 | 29,526千円 |
| 投資有価証券評価損 | 8,064千円 |
| 会員権評価損 | 12,105千円 |
| その他 | 56,028千円 |
| 繰延税金資産小計 | 1,112,117千円 |
| 評価性引当額 | △32,321千円 |
| 繰延税金資産合計 | 1,079,796千円 |
| 繰延税金負債 | |
| 買換資産圧縮積立金 | △140千円 |
| その他有価証券評価差額金 | △144,070千円 |
| 繰延税金負債合計 | △144,210千円 |
| 繰延税金資産の純額 | 935,585千円 |

関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

| 種類 | 会社等の名称 | 議決権等の所有（被所有）割合（%） | 関連当事者との関係 | 取引内容 | 取引金額（千円） | 科目 | 期末残高（千円） |
|-----|----------------|-------------------|------------------|-------|-----------|-----|-----------|
| 子会社 | 日置（上海）測量技術有限公司 | 所有 直接100% | 当社製品の販売 役員の兼任 | 製品の販売 | 7,061,241 | 売掛金 | 1,572,390 |

（注）取引価格は、市場価格に基づき交渉の上決定しております。

収益認識に関する注記

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、「連結注記表 収益認識に関する注記」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

1 株当たり情報に関する注記

- 1 株当たり純資産額 2,605円93銭
- 1 株当たり当期純利益 447円14銭